

# クスノキの育て方

## その1 クスノキの苗の育て方

種の水管理ですが、冬から春の間は基本的に苗の表面の腐葉土が乾燥しないように、2～3日おきに水



を撒いてあげてください。クスノキの種は、11月～12月に種を播いた場合4月から6月にかけて芽を出します。7月から10月までは、ほぼ毎日水を撒いて結構です。ただここで問題なのは、日差しです。クスノキは、自然状態だと少し暗い森の中で発芽し、育ちます。そのため6月から10月までの日差しが強いあいだは、それを再現するためにわざと日陰

で育ててあげましょう。種を植えて翌年の4月から5月にかけての間に、固形状の置き肥をしてあげると、成長速度が少し速くなるでしょう。

## その2 クスノキの成長について

クスノキの成長速度は、データによって様々です。1年間ポットで育てるとうまくいって10センチから20センチ、2年育てると20センチから30センチの苗になります。そして、5年ほどで、2メートルになります。これは、あくまで目安に過ぎません。天候や水やりの量、種子自身の個性、生命力が関係してきます。

## その3 植樹方法について

植樹方法については、場所により異なります。もし仮に、自分の家の庭に植樹する場合、成木は高さ25メートルに達するため成長後の日照について考えておく必要があります。また、昔からクスノキは木の気性（性格？）が、我慢強く、生命力も旺盛なため桜（ソメイヨシノ）などのそばに植えておくと、桜が負けてしまい、やがて枯れていく可



能性が高くなります。その他、森に戻す場合は、台風などによって倒れた木（風倒木）のそばなどに植えるとよいでしょう。なぜかという、その部分だけ光が差し込み、森の中に光の穴（ギャップ）ができてきているためです。

斜面に植樹する場合、先端の芽が必ず空へ向けてまっすぐ伸びているよう植えます。こうすることで、根が地中にむけてまっすぐ伸び、防災上土砂崩れが起きるのを防ぎます。また、空へ向けてまっすぐ植えたほうが、植樹されたクス自身も葉の受容する光の量が最大となり、成長も早いはずで、平地で植樹する場合も空へ向けてまっすぐ伸びるように、土に対して茎が垂直になるようにします。植樹したら、落ち葉を植えた場所の周りにかけてあげましょう。これは、土からの水の蒸発の抑制と雑草の発芽防止、肥料という3つの効果があります。植樹後は、3年あまり夏に草抜きをしましょう。それ以後は、自分で立派に成長します。

（参考文献）日本の樹木種子（広葉樹編）

社団法人 材木育種協会

1998年